



大きなトウモロコシを収穫



▲JA職員と一緒に収穫



▲園児からプレゼントされた絵

善通寺学園善通寺幼稚園年長の園児63人は7月10日、JAひろしま広北学童農園でトウモロコシの収穫を体験しました。

JA営農販売課、呉アグリセンターの職員が収穫の仕方を説明。30℃を超える暑い中、一人2本ずつもぎ取り、コンテナに収穫しました。

今年は天候にも恵まれ、ひと際大きなトウモロコシとなりました。収穫後、園児の皆さんより感謝を込めた絵をプレゼントしていただきました。



▲もぎ取り後コンテナへ



初夏を告げる味覚 蒲刈スモモ出荷

6月中旬、くれ選果場で初夏を告げる果物と称されるスモモの出荷が始まりました。「大石早生」を皮切りに「サントローザ」「サマーエンジェル」などを荷受け、出荷します。

蒲刈スモモ生産組合の石井芳清組合長は、「着色や熟度を見極めながら収穫した後、自宅で大きさや着色状況により仕分け、出荷基準を順守し丁寧に詰めています。ピーク時には収穫作業に追われるため、選果場のバック詰め請負を積極的に利用しています。蒲刈産のスモモは、石積み段々畑という日当たりの良い環境で栽培され

ているため、全国的にも味が良いと評価されている。1カ月間という限られた期間の貴重な果実なので、蒲刈スモモで消費者に旬を感じてもらいたい」とPRします。



▲収穫する石井組合長

中町支店起工式

7月2日に江田島市能美町において中町支店新築に向けた起工式が行なわれました。同町の八幡神社から斎主を招き地鎮祭が執り行なわれ、JAからは組合長をはじめ多くの役員が出席し、工事期間中の安全を祈願しました。建物が完成するまで中町支店は現状通り、中町店は旧電化センター店舗での営業となります。建物の完成は令和8年1月を予定しており、その後移転・新装オープンとなります。



▲工事の安全を願って



なるほど え〜のう! 営農情報

落葉果樹

■イチジク

▽新梢管理

枝が密生していると、葉が果実に当たりやすくなることで果実の表面にスレ傷の発生や、日照不足による着色不良果が増えるなど、外観品位が低下します。枝が混んでいる所は枝抜きを行ないましょう。

▽灌水

夏季の高温乾燥は、果実肥大を鈍らせ落葉を引き起こすこともあります。晴天が続くようであれば灌水を行ないます。

▽収穫

いよいよ、今月から収穫が始まります。イチジクは収穫適期が短く、収穫が早すぎると糖度の低い果実とな

り、逆に収穫が遅れると過熟となり日持ちの悪い果実となりますので注意が必要です。

適期採取に努め、果実温度の低い早朝に行ないましょう。

また、降雨直後に収穫した果実は、カビや腐敗が発生しやすくなるので注意が必要です。

■カキ

▽強勢樹のせん定

樹勢の強い樹は、枝を切り戻しても、幾度も強勢な枝が発生すると思います。

そのような樹は、盆過ぎから9月上旬にかけせん定を行ないます。

9月中旬頃から、冬に向けて樹体内に養分を貯蔵する時期となるため、貯蔵開始する前までに葉数を減らすことで、貯蔵養分を少なくし、樹勢を落ち着きやすくなります。

せん定時期が、早すぎても遅すぎても効果を発揮しません。

適期にせん定を行ないましょう。

▽台風後の対策

先月までは摘果時期でしたが適正量まで摘果できましたか？

夏から秋にかけ台風襲来の時期となります。

台風の影響により運悪く落葉した場合、風による生傷などを積極的に摘果しましょう。

◎切り過ぎには注意しましょう！
光環境を改善するために徒長枝の3分の2程度をせん定する。

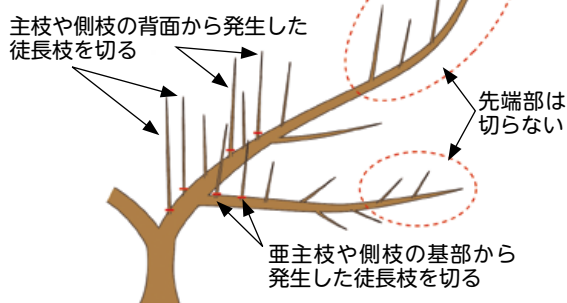


図1 モモの夏季せん定で切る枝

樹勢が弱ったと思い、肥料を施用したら、根がますます傷みます。カキは肥料よりも水が必要です。他の作物と同様の考えで肥培管理しないように注意しましょう。

■モモ

▽夏季せん定

夏季せん定は、強樹勢を落ち着かせるための調整、樹冠内部まで日当たりをよくすることによる花芽の充実、冬季剪定の軽減が目的です。

収穫後（8月下旬〜9月上旬）に新梢の伸長が停止したところが目安です。不要な徒長枝や樹冠内部の立枝をせん除し、せん定量は30％程度までとします。

■ナシ

▽収穫

早く熟れる樹から収穫します。同じ園の中でも樹勢の強弱、日照の関係などで熟期の早晚があります。

また、樹内での熟れ方は、樹の先端部が早く、主幹に近い部分が遅れて熟れます。側枝の中では、樹齢の古い枝が早く熟れます。

このようなことから、一度に収穫せず、3回程度の分割採取を行ないましょう。

■一言

夏に灌水したいものの、十分な水源が確保できない場合は、夕方に株元へ灌水を行ないます。この方法は、やむを得ない場合の方法なので、可能な限り水源の確保と土壌水分の保持に努めてください。

植物だけでなく、人も水分補給が必要です。

暑い時間帯の長時間作業は避け、涼しい場所で休憩と水分補給を頻繁に行ない、熱中症にならないように気を付けましょう。

家庭菜園

一年でもっとも暑さが厳しくなる8月。連日の猛暑や強い日差しにより、体力も気力も奪われがちですが、家庭菜園ではトマトやナス、キュウリやピーマンなど、夏野菜の恵みを実感できる楽しみな季節です。

一方で、強い日差しや乾燥、高温による生育不良、さらには病害虫の発生も懸念される時期です。加えて、8月になると早い地域では秋冬野菜の種まきも始まってきます。今回は、8月の家庭菜園で押さえておきたい管理のポイントをいくつかご紹介します。

◎水やりの工夫で夏を乗り切る

まず最も大切なのが、水やりの工夫です。気温が高くなると、土壌の乾燥が著しく進み、植物は水分を十分に吸収できなくなります。特にトマト、ナス、キュウリなどの果菜類は、水分不足になると実が固くなったり、皮が割れたり、最悪の場合は生育が止まってしまいます。

水やりの基本は、朝か夕方の涼しい時間帯に、株元にしっかりと水を与えること。炎天下での水やりは、水がすぐに蒸発してしまうだけでなく、葉焼けや根傷みの原因にもなるため避けましょう。

プランター栽培では土の量が限られるため、特に乾燥しやすくなります。鉢底から水が流れ出るくらいたっぷりと与え、土の状態を日々チェックすることが重要です。指で

軽く土を押してみ、乾いているようなら追加で水を与えるなど、こまめな対応が求められます。

◎夏野菜を元気に保つための追肥

8月は、夏野菜が疲れを見せ始める時期でもあります。ナスやピーマンなどは長く収穫できる反面、株が消耗しがちになります。実のつきが悪くなり、葉の色が薄くなってきたら追肥のサインです。

与えすぎは禁物です。肥料が多すぎると葉ばかりが茂って実がつかない「つるぼけ」状態になることがあります。野菜の生育状況をよく観察し、必要に応じて加減しましょう。

◎秋冬野菜への準備を始めよう

8月は、秋冬野菜の栽培準備が始まる時期でもあります。地域によっては、白菜、カリフラワー、キャベツなどの種まきがスタートします。

ただし、高温期に種をまくと発芽不良や苗の傷みが起こりやすく、病害虫にも狙われやすくなります。特に気をつけたいのが根こぶ病とアブラムシ、シンクイムシです。

◎病害虫対策は「予防」と「早期発見」がカギ

8月は害虫が活発に活動する時期です。特に注意したいのがアブラムシとシンクイムシ。いずれも見逃すと被害が拡大しやすく、収穫量に大きな影響を及ぼします。アブラムシは、新芽や葉裏に群がり、汁を吸って生育を妨げるほか、モザイク病などのウイルスを媒介することもあり

ます。発見が早ければ牛乳スプレーや水流での除去が可能です。大量発生してしまった場合は、登録農薬の使用を検討しましょう。天敵であるテントウムシやヒラタアブの幼虫がいる場合は、自然の力を活かす工夫も有効です。

シンクイムシ（ハスモンヨトウの幼虫など）は果実や茎の中に潜り込んで食害するため、外からは被害に気づきにくいのが特徴です。発生初期に卵や小さな幼虫を見つけて駆除することが何より大切です。

また、防虫ネットや寒冷紗などの物理的な防除資材も効果的です。定期的に葉の裏や茎、果実の状態を観察し、異変を見逃さないようにしましょう。

◎根こぶ病に注意

根こぶ病は、アブラナ科野菜（白菜、キャベツ、カリフラワーなど）に発生しやすく、根にこぶのようなこぶをつくる病気です。多湿かつ酸性土壌で発生しやすく、一度発病すると回復が難しいため、事前の予防が重要です。

発生が予想される畑では、根こぶ病対策の土壌用薬剤をすき込むなどの予防措置を講じましょう。連作を避けることも大切な対策のひとつです。

◎熱中症対策を忘れずに

8月の作業では、自分自身の健康管理も非常に重要です。熱中症を防ぐためには、のどが渇く前から水分と塩分をこまめに補給し、作業は早朝か夕方の涼しい時間帯に行なうよ

うにしましょう。

服装は、通気性のよい長袖・長ズボン、つばの広い帽子を着用し、首元にタオルを巻いたり、小型ファンを使用したりするのも効果的です。

「めまい」「ふらつき」「頭痛」「吐き気」などの症状が出た場合は、すぐに作業を中断し、涼しい場所で休憩を取り、経口補水液やスポーツドリンクを摂取しましょう。判断に迷う場合は無理をせず、医療機関に相談してください。

家庭菜園は健康づくりにもつながる素晴らしい趣味ですが、体調を崩しては元も子ありません。無理のないペースで、体調第一で作業に取り組ましましょう。

まだまだ暑さの厳しい日が続きますが、しっかりとした管理を行えば、夏野菜は最後まで元気に育ち、秋冬野菜への準備も順調に進めることができます。自然と向き合い、季節の移ろいを感じながら過ごす家庭菜園は、忙しい毎日の中で心を豊かにしてくれる貴重な時間です。熱中症に十分注意しながら、今夏も無理のない範囲で、家庭菜園のある暮らしを楽しんでいきましょう。



ときめき ♡ 女性部通信

尾道市を散策 呉地区女性部親睦旅行

JA女性部呉地区本部は7月10日に同地区各支部より参加した部員35人で「道の駅クロスロードみつぎと尾道の旅」と題して尾道市へ親睦旅行に行きました。

天気にも恵まれ、千光寺山ロープウェイから尾道市街や瀬戸内海の絶景を、尾道市本通り商店街では七夕飾りを楽しみました。



▲食後にホッと一息



▲千光寺山ロープウェイ



▲猫の細道



▲尾道本通り商店街の七夕飾り

家の光を参考に ミニバスケット作り

大古支部

JA女性部呉地区本部大古支部は7月8日(火)に家の光6月号に掲載されたPPバンドミニチュアバスケット作りを行ないました。大古支部では毎月第3火曜日に家の光読書会を行なっています。前回の読書会でミニチュアバスケット作りに興味を持ち、今回の読書会で手芸経験者を中心に作成会も行ないました。

設計図を基にPPバンドを1本1本交互に組み合わせバスケットを作り、持ち手を付けて約2時間で完成です。

重松支部長は「指先の運動にもなり、楽しかった。こ

れからも女性部として家の光の記事を参考にした活動を行ないたい」と話しました。



▲完成した作品
を手に



▲部員同士で教え合いながら作成